



プロボウリング 2019 後半戦を展望 見所満載 決戦の秋!



▲開幕戦で永久シードに王手をかけた姫路

8月末までに(新人戦、シーズントライアルを除き)男子は4試合、女子は6試合を消化。残るレギュラーツアーは男子7試合、女子は8試合で、2019プロツアーは、これからがシーズン本番ともいえる。

男子はデビューから9年間で5度のポイントランキング1位に輝く川添奨太をはじめ、藤井信人、日置秀一、山本勲ら実力者を抑え、2月のKUWATA CUPで初タイトルを獲得した志摩竜太郎が、7月の東海オー

ブンでも2位に入り、ポイントランキングトップを走っている。とはいっても、1試合で順位が大きく変動しそうな混戦だ。志摩のほかにも、上位常連組に割って入る新顔が登場するのも楽しみだ。いずれにしても最終戦の全日本選手権まで目が離せない闘いが続きそうだ。

リスタイ使用が認められる最後のシーズンとしても注目される

る女子。ここ8年間にわたりランキングトップを松永裕美と姫路麗の2強が分け合ってきた。今季、松永は現在9位とやや出遅れているが、姫路は2月の新設トーナメント“WOMEN'S ALL☆STAR”で1勝を挙げ、トップに立っている。2強の壁を崩す候補の一番手は、現在2位につける寺下智香だ。昨年の全日本選手権を制した佐藤まさみも、

六甲クイーンズで1勝を挙げ、3位の好位置につけている。そしてKUWATA CUPを勝った中野麻理子をはじめ、内藤真裕実、渡辺あき、そして新人戦を制した川崎由意と、今年もすでに4人の新タイトルホルダーが誕生している。

ランキング争いとは別に注目されるのが、久々の永久シード(通算20勝)獲得者が誕生するかどうかだ。

姫路が18勝、川添は17勝で今季をスタート。姫路は開幕戦

のWOMEN'S ALL☆STARで幸先よく優勝し、王手をかけた。六甲クイーンズでもTV決勝にトップシード進出で一気に決めるかと思われたが、寺下に阻止された。一方の川添も、グリコセブンティーンアイス杯で1勝を上乗せしたが、盤石の内容で決勝に進んだ東海オープンでは、シュートアウト・セミファイナルで不覚をとり、18勝にとどまっている。しかし残り試合数を考えれば、ともに今季中の達成の可能性は十分だ。

9月以降のJPBA トーナメントスケジュール

開催日	大会名	性別	会場
9月 11日(水)~14日(土)	第14回MKチャリティカップ	男・女	京都・MKボウル上賀茂
22日(日)~24日(火)	第10回HANDA CUP マスターズ	男50歳以上	東京・品川プリンスホテル
30日(月)~10月4日(金)	第21回三湖コリアンカップ	男子	韓国
10月 18日(金)~20日(日)	コカ・コーラカップ2019千葉オープン	女子	千葉・ユウカリボウル
25日(金)~26日(土)	ROUND1 GRAND CHAMPIONSHIP JPBA 決勝大会	男・女	大阪・ラウンドワン堺中央駅店
11月 1日(金)~4日(月・祝)	第42回STORM ジャパンオープン選手権	男・女	愛知・稲沢グランドボウル
9日(土)	ROUND1 GRAND CHAMPIONSHIP 2019	男・女	東京・ラウンドワン南砂店
20日(水)~21日(木)	全館建アゼッツ JPBA☆SSS カップ2019	男・女	東京・東京ボートボウル
11月 29日(金)~12月1日(日)	HANDA CUP 第53回全日本プロ選手権	男子	埼玉・新狭山グランドボウル
12月 4日(水)~7日(土)	第42回JLBC プリンスカップ	女子	東京・品川プリンスホテルBC
12日(木)~14日(土)	HANDA CUP 第51回全日本女子プロ選手権	女子	東京・東大和グランドボウル

2019男子ポイントランキング ベスト10 (8月末現在)

順位	氏名	期	TM数	G数	総T/PIN	AVG	ポイント	獲得賞金額	優勝回数(今季V)
1	志摩竜太郎	55	7	97	21,208	218.63	1,971	2,916,700	1(1)
2	川添 奨太	49	6	90	20,329	225.87	1,689	1,703,200	18(1)
3	藤井 信人	52	7	111	24,451	220.27	1,497	1,679,000	5(1)
4	太田 隆昌	37	7	105	22,824	217.37	1,455	1,150,300	0
5	日置 秀一	43	5	79	17,448	220.86	1,360	1,714,700	4(1)
6	山本 勲	44	7	100	22,129	221.29	1,195	1,063,300	15
7	村上 拓也	45	6	98	21,366	218.02	1,150	635,000	0
8	谷合 貴志	52	7	103	22,665	220.04	1,051	819,300	4
9	工藤 貴志	42	7	106	22,969	216.68	1,002	679,200	1
10	渡邊 雄也	52	7	91	19,571	215.06	942	614,800	0

2019女子ポイントランキング ベスト10 (8月末現在)

順位	氏名	期	TM数	G数	総T/PIN	AVG	ポイント	獲得賞金額	優勝回数(今季V)
1	姫路 麗	33	6	107	23,076	215.66	2,056	2,710,000	19(1)
2	寺下 智香	47	6	112	24,346	217.37	1,896	2,115,000	5(1)
3	佐藤まさみ	42	6	107	22,714	212.28	1,771	1,828,000	5(1)
4	本橋 優美	51	6	99	20,489	206.95	1,450	1,110,000	0
5	坂本 かや	49	6	102	21,398	209.78	1,294	1,255,000	1
6	小久保実希	47	5	81	16,166	199.58	1,205	1,071,000	0
7	浅田 梨奈	48	7	115	24,681	214.61	1,202	1,034,000	0
8	内藤真裕実	48	7	104	21,902	210.59	1,164	1,628,000	1(1)
9	松永 裕美	37	6	109	23,257	213.36	1,161	780,000	15
10	堂元 美佐	35	6	90	18,842	209.35	1,076	865,000	3

FOCUS UP

新人戦タイトルホルダーを目指す“バックヤードのスペシャリスト”



▲ドリラーとしてのモットーは「お客さんにケガをさせないこと」

次号から本紙でワンポイントレッスンのコーナーを担当していただくことになった棚橋孝太プロ(46期)。本号ではまず、その人となりを紹介させていただく。今年がデビュー13年目の37歳。トーナメントプロとして今がいちばん脂の乗りごろと思いきや、公式戦のアプローチに立つ姿はほとんど見かけない。現在の主戦場は表舞台ではなく、実はバックヤードにあるのだ。

新人戦Vは最後尾からの大まくり

棚橋プロは高知県の出身。3年前に他界した元競輪選手の父親がボウリングをいちばんの趣味とするマイボウラーだったこともあって、自身も小学校時代からボウリングに親しんでいたという。

「中学時代から高校1年まで、部活では器械体操をやっていたんですが、高2のときに顧問の先生が異動でいなくなって廃部に(苦笑)。そのころ、国体の種目にボウリングがあることを

知って、それから本格的に投げ始めました」

高知県は競技ボウラーが少ないこともあって代表になるのは容易だったが、四国ブロック予選であえなく敗退。大学はボウリング部のある福岡の第一経済大(現・日本経済大)に進み、在学中には全日本ナショナルチームメンバーにも名を連ねた。

卒業後も福岡にとどまり、ボウリング場を経営する会社に就職したが、インターネット関連の部署に配属されたため、2年半余りで退職。上京して国分寺パークレーン(2008年10月開

鎖)のスタッフとなる。「将来的にはショップやドリラーの仕事がしたいと思っていた」ため、仕事休みの日はJBCの公認ドリラーである高田誠氏に師事して、ドリルのイロハを学んだ。プロボウラーになるつもりはなかったが、「センター所属のプロが一人辞めるので、プロテストを受けてほしいということになって(苦笑)」急きょ07年のプロテストに臨み、見事一発合格。翌08年には男子新人戦を制し、デビュー2年目にして早くもタイトルホルダー仲間入りを果たした。

この新人戦の勝ちっぷりが凄い。じつは次点で予選落ちしていたのだが、翌日にJBCの大会が重なったアマチュアの選手が一人辞退して繰り上がり。「自分より下はない」と開き直って挑んだ準決勝4G、決勝ラウンドロビン8Gでビッグゲームを連発し、最後尾から大まくりを決めたのだった。

だが、同時期に勤務する国分寺パークレーンの閉鎖が決まっており、その残務処理もあって

以後のレギュラーツアーはブラインド。棚橋プロはコバ商事に移籍するが、本来の夢を実現させるため、ほどなくして独立を決意する。

「お客さんにケガをさせてはいけない」

現在は取引の信用を担保するために立ち上げた「株式会社アクシス」でボウリング用品の卸売業を営み、教え子でもある鈴木馨プロ(51期)の株式会社BELLEと提携して、彼女がデザインするユニフォームの製作なども手がけている。

プロボウラーとしては「ワンデイのシーズントライアルにはちょこちょこ行くけれど、何日もかかる公式戦は年に1回行くか行かないか」で、フリーランスのドリラーとして、依頼に応じて全国どこかのセンターにでも出かけていくというライフスタイルだ。

また、JBC認証部会が全国で開催する公認ドリラー講習会では、先輩ドリラーの日坂義人氏とともに講師を務めている。

「来年8月にUSBC(全米ボウリング協会)のルールが改正されます。ドリルに関しても改正点が多く、みなさんに正しい知識を持ってもらわないといけない。誤った穴を開けて大会に

出られなくなったら選手がかわいそうですから」

ドリラーとして肝に銘じているのは「お客さんにケガをさせたいいけない」ことだという。

「技術的な部分は難しいんです。武道にさまざまな流派があるように、ドリラーによって考え方が違いますから。USBCが定めた適正スパンというのがありますが、ボールの持ちやすさ、投げやすさは人それぞれ。どれがいいかを決めるのはお客さんなんです。ただ『投げて指が切れた』『腱鞘炎になった』『骨が変形した』などとなれば、それはドリラーの責任。お客さんの投げ方のせいにするのは間違っている。プロや競技ボウラーを目指している人は別ですが、ボウリング場に来る大半の人は楽しみで投げている。完璧に投げられなくて当たり前なんですから」

顧客ファーストを信条に目指す“バックヤードのスペシャリスト”。表舞台でスポットライトを浴びることだけがプロの道ではない。

たなはし・こうた / 1982年1月19日、高知県生まれ。168cm、70kg、右投げ。2007年プロ入り(46期/ライセンスNo.1145)。公式戦優勝1回(08年男子新人戦)。日本スポーツ協会公認指導員、JBC公認ドリラー。